

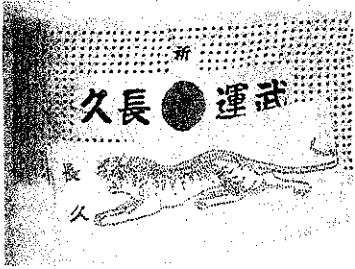
※この会報に、ご寄稿、ご意見、ご質問、ご感想、また『戦争体験』をお寄せください。



九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No. 129
2010(平成22)年3月18日(木)発行

<1933(昭和8)年3月18日、大正昭和期の政治学者・思想家吉野作造の命日>○1878年宮城県生まれ。東大卒。東大教授。キリスト教的ヒューマニズムに立脚して文筆活動を展開。デモクラシーに「民本主義」の訳語を与え、普通選挙論や枢密院・貴族院権限縮小論、軍部改革を主張して、大正デモクラシーに理論的根拠を与えた。戦後の憲法研究会の鈴木安蔵の思想にも大きな影響を与え、日本国憲法の思想水脈の一つ。宮城県大崎市古川の「吉野作造記念館」は大変充実している。



▲千人針せんじんばり 出征兵士の幸運を祈って、家族が街頭に立ち、女性に一人ひと針つつ赤い糸で縫ってもらった。(写真は大修館書店『新国語要覧』より)



戦時中の思い出
原町区馬場 羽根田ヨシ

梅の花も咲き始め、福寿草も顔を出し、春の味覚を満喫出来る幸せを感じながら大好きな春到来です。この様な平和を実感出来ますこと、振り返ってみる時、あの嫌な戦争という二度とあってはならない出来事を想い出さずにはいられず、忘れられず、六十数年前の出来事を回顧致しながら綴ってみることに致します。

私は昭和五(一九三〇)年五月十二日、阿武隈の山あいの津島村(現浪江町)に生まれ、今年八十歳になります。

兵隊さんの出征を見送る

小学校高学年の頃、昭和十六年十二月八日戦争が始まりました。津島村のバスの駅から、兵隊さんが出征して行きました。小さな日の丸の旗を振りながら、婦人会の人達にまじり見送りしました。駅はいっぱいの人集りでした。婦人会は「国防婦人会」というタスキ

を白い割烹着の上にかけて姿でした。村長さんの挨拶にはじまり、兵隊さんは「銃後の守りをよろしく」といような言葉が入っております。

千人針というものを、あちこちで赤い糸で縫って、これを持たせてやったようでした。「兵隊さんへ」という手紙も何回か書いて出しました。

また、私の家の近くに小学校の運動場があり、村の婦人会や青年団の人達の行進訓練を見に行ったものです。四列に並んでの行進は、足と手を一緒に動かす人があちこちについて、今では考えられない光景に笑いながら見ていました。「イチニー、イチニー」の号令があり、一段と高い所に軍服姿の偉い人がおり、その前を通る時、班長の人が「カシラー」とい号令に一斉に右を向き、一生懸命でした。

竹槍の訓練など

今では馬鹿げたことですが

若し人達は「近くに爆弾が落ちた」という想定で、一列に並んで水の入ったバケツリレーで火を消す訓練や、竹槍の訓練もしていました。鉢巻きをして竹槍をもち勢いよく一

突っ込めー「ヤー」と走って行って人形を突く光景は、今考えると本当に馬鹿げたことですが、戦時中はそんな光景もありました。

小高町の農学校に入学

小学校六年、高等科二年、そして上の学校にと進む時は勿論六年生で津島村から女学校行きはいいませんでした。が、高等科卒で他校に進学するのはクラスで五、六人でした。

私は小高農学校(現小高商業高校)に入学が決まり、家を去る時、隣近所からの餞別は一円位でした。学校の授業料が五円位だったと思います。

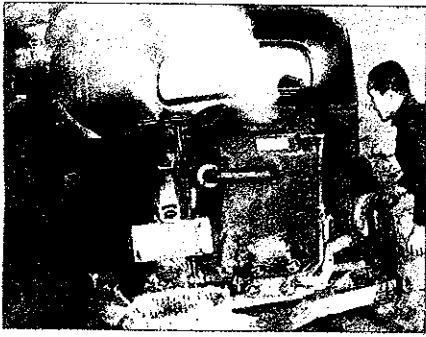
私は兄と一緒に、小高町の今村さん宅の二階を借り自炊しますが、炊事は下で行いました。炭の七輪で御飯を炊きました。焚き付けは小高神社の裏山あたりから取ってきたものでした。今村さん宅は「へつつい(竈かまど)」というもので火を炊いていました。

空襲警報で安全な所に避難

小高町にも度々「空襲警報」があり、その時は安全な所に逃げなければなりません。ある夜は今村さんの子供を一人ずつおんぶして、小高神社の前を通りぬけ、暫く行くと安全な隠れ場所があり、そこに行ったものでした。小高神社の北の八景はけの防空壕に入ったこともあります。

また、学校への服装は制服があつて、下はゴムの入ったズボンでしたが、下駄を履いて、手提げは木口のついた袋でした。

(裏面につづく)




▲木炭自動車 ガソリン不足から自動車もバスも木炭バスに変わる。運転手も男性が出征して女性運転手になったところも多かった。(写真・とうほう『日本史総覧』より)



(表のページより)
 勿論学校では、草刈り、そして田植への農作業があり、田んぼは小高の浦の干拓での作業。学校から長い道のりを歩いて行き、田に入ると恐ろしい程大きなヒルに吸いつかれ、皆んなで大騒ぎしたことなどありました。
木炭バスは女性の運転手で途中で止まってしまう！
 戦時中は鉄道の切符もなかなか買えませんでした。ある時、津島の家へ帰り小高に戻るときのことです。朝早く母親に停留所まで送って戴き、浪江行きのバスに乗りました。ところが当時は石油不足で木炭バスで、しかも運転手さんは当時は珍しい女の方でした。男性の方は兵隊に行ってしまった。男性の方は兵隊に手さんだと聞かされていきましたが、途中でバスが動かなくなり、暫く待

たされました。浪江駅に着いた時はすでに汽車には間に合わず、浪江駅から小高の学校まで歩いたこともあり。それまで私はい日も欠席は無かったので、初めての道をよくも歩いたもので、今でもあの当時から歩けたと思います。昼ころ学校に着いて皆に大笑いされ受けたことなど、遠い記憶がよみがえって参ります。
 やがて終戦。戦いはアメリカに負けたこと、校庭に一同並んで校長先生の訓話。女生徒は一齐にワンワン泣きじやくりました。男性は黙って首を垂れておりました。
今は恵まれてる時代ですが
 今は本当に恵まれた時代になりました。昔は正月三日位しか白い御飯は食べられず、今の時代にこんなことは若者には聞いてもらえない。こんな恵まれた生活が当たり前と思っていて、一抹の不安があります。
 戦争は本当に恐ろしい。赤紙(召集令状)一つで兵隊に取られ、国のために戦わなければなりません。私の父の兄の羽根田昌己は相馬農校で大変優秀でした。が、終戦の二日後の八月十七日にわが羽根田利夫(ハネダ・カンボス)の星(発見者)も兵隊に行きました。が内地召集で助かりました。
 戦争は本当に大変です。あんなことは繰り返してはいけません。
 「はらまち九条の会」(会員)

これからの行事

- 4月24日(土) 1時~2時 **「はらまち九条の会」総会** 2時~4時 **「蓮池 透さん講演会」**
- 4月29日(木・昭和の日) 1時30分~4時30分 **星 浩氏講演会「戦後政治と憲法」**
 主催:福島県九条の会 会場:福島県文化センター :協力券1,000円 <別紙チラシ参照>
 第1部リレートーク・第2部奏でよう平和への願い・第3部講演会(協力券は事務局山崎まで)
- 5月15日(土) **「いのちの山河」第2回上映会** 会場:小高区浮舟文化会館 
 暖かい季節の上映会で、朝日座でお見逃しの方もぜひご入場ください。チケットは朝日座との共通です。

事務局より

◆「いのちの山河」上映会も、4月24日(土)の「蓮池透さん講演会」も、小高九条の会との共催です。小高さんと協力して開催すると、本当に心強く、事務手続きも労力も半分 で済み、本会事務局では感謝しています。
 ◆本会会費1,000円は1月から12月までの年会費ですが、今年から会費の納入期限は6月とさせていただきます。未納の方は直接事務局員に手渡すか、総会での納入、また5月に送付の「郵送支払い用紙」で納入をお願いいたします。
 ◆「政権交代は政権後退だ!」とコメディアン の松元ヒロさんは話していますが、この政治の混乱ぶりはどうしたことでしょう。一挙に「憲法改定・9条改訂」ということもあり得ます。決して油断はできません。監視と学習を深めましょう。

「はらまち九条の会」事務局員連絡先(市外局番 TEL0244)

- 平田慶筆会長 TEL24-1211
- 山崎健一事務局長 TEL22-8631(〒975-0014 南相馬市原町区西町3-53-2)
- 井上由美(会計) TEL22-7511・FAX26-0892 ○石田賢二 TEL22-4037
- 早坂吉彦 TEL22-0326 ○番場恵子 TEL22-0715